

## 学校経営推進費 事業計画書

### 1. 事業計画の概要

学校名	東大阪支援学校
取り組む課題	D 生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援学校における児童生徒、保護者の学校満足度の向上</li> <li>・ 支援学校における地域連携と外部への情報の発信</li> </ul>
計画名	「東大阪はなさくプロジェクト～大切な私・大切なあなた・大切な私たちのウエルビーイング！～」

### 2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画 の中期的目標	<p>1. 【基礎】安全安心な校内体制構築の実現 ～児童生徒の心身の健康と人権を守り、安全・安心に学べる学校～</p> <p>（２）すべての児童生徒の「心身の健康」を守り、すべての児童生徒・保護者・教職員にとって「安全安心な校内体制」を構築する。→重点取組「生命（いのち）の安全教育」</p> <p>4. 【発信】多様性社会の推進と実現～地域に開かれ、お互いの学びを発信し、多様性社会の実現に使命が発揮できる学校～</p> <p>（１）「学校間交流」「居住地校交流」等について進化・深化させ、「ともに学び、ともに育つ」教育のさらなる推進を行う。併せて「支援教育のセンター的機能」を発揮する。</p> <p>（２）「地域に開かれた学校作り」実現のため、保護者・地域住民・地域小中学校・関係機関との協働を推進する。</p> <p>（３）児童生徒・教職員が東大阪支援学校の取組み・実践・自らの学びを積極的に発信し「すべての人が自分らしく生きていく社会の実現」に向けて使命を発揮する。</p> <p>→重点取組み「児童生徒・保護者・教職員、全員の Well-Being! の実現」</p>
事業目標	<p>●「東大阪はなさくプロジェクト～大切な私・大切なあなた・大切な私たちのウエルビーイング！～」</p> <p>①「生きる教育」（生命の安全教育含む）の推進により、「自分も相手も大切に、つながって生きていく力」を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「生きる教育」の根幹には「あなたは大切な存在。困ったときに助けてくれる人・場所がある」という大切なメッセージがある。愛着課題や傷つき体験のある児童生徒も含めて、すべての子どもが家庭環境に左右されることなく、学校教育で「生きる教育」の各単元を学び、レジリエンスと援助要請スキルを身につけることをめざす。</li> <li>・ 「学校ヨガ」で「呼吸法」を覚え、自分自身で「心と身体を整える」方法を学び、「自分を大切にできる自分」になる。感情が高ぶった時には、「カームダウンルーム」を活用し、落ち着くことができるようになる。</li> </ul> <p>②「自己表現の可能性」を広げ、自尊感情が高まり、「ウエルビーイング」を実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重度重複障がいがあり、自己表出が難しい児童生徒が多く在籍する中、「デジリハセンサー」を使うことで「自分で動かすこと」の楽しさを感じ、「自分のできること」を広げて、運動面・認知面・情緒面の発達を促す。コミュニケーション力を向上させて自己表現力を</li> </ul>

			育む。スヌーズレンルームで生理的基盤を整え、インプット・アウトプットの力も高める。 ★児童生徒一人ひとりが「自分だけの花」を咲かせ、キラキラ輝いている姿を地域小中学校や地域住民へ発信し、相互に高め合い、多様性社会の推進に使命を果たすことで、児童生徒・保護者の満足度向上に繋げる。
取組みの概要	整備する設備・物品		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「デジリハ(Digital Interactive Rehabilitation System)ルーム」と「機材（各センサー・パソコン）」の整備</li> <li>・「学校ヨガルーム」の設置、ヨガマット 30 枚、「学校ヨガ授業講師費用」年 6 回×3 年＝18 回</li> <li>・「カームダウンルーム」の整備、スヌーズレン物品購入（アクア DX チューブ 3 本・サイドグロー 2 本・光の惑星等）</li> <li>・「アクティブホール」の整備、感覚統合遊具の購入（サンライトスイング 3 台）</li> <li>・「生きる教育（生命の安全教育含む）関連教員向け研修費用」年 5 回×3 年＝15 回</li> </ul>
	前年度		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生命（いのち）の安全教育」を実践するため、9 月 27 日・28 日に先進校視察を実施。11 月職員会議で伝達講習を実施。</li> <li>・「生命（いのち）の安全教育」の一環として、外部講師を招聘し、「SNS・情報モラル出前授業」を 5 回実施。 出前授業の動画を全教職員へオンデマンド配信。講師による保護者向け説明動画も「一斉メール」で配信。</li> <li>・京都大学大学院「生きる教育」プロジェクトの研修に 5 回参画。単元「子ども権利条約って知ってる？」の教材提供あり。</li> </ul>
	初年度		<p>【環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジリハルームの整備。カームダウンルームの整備。スヌーズレン用具の配置。ヨガルームの設置。</li> </ul> <p>【校内支援・研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動部による「デジリハ機器・スヌーズレン機器」等の活用推進。講師を招聘して授業巡回・指導助言をいただく。</li> <li>・外部講師による「カームダウンルーム」の研修を実施。また、「活用事例」について指導助言をいただく。</li> <li>・「生きる教育」の取組みの一環として、「学校ヨガ」を個別授業で実践する。（専門家による出前授業。2 学期・3 学期）</li> </ul> <p>【保護者への発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立活動部とコーディネーターが中心となり、「東大阪はなさくプロジェクト通信」を「一斉メール」で配信する。</li> </ul> <p>【地域支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の小・中学校等へ導入した機器等について紹介し、ニーズに応じて個別の来校体験会を行う。</li> </ul>
	2 年め		<p>【校内支援・研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジリハ機器の「活用事例報告会」を実施。外部講師を招聘し、評価及び指導助言をいただき、実践を改善する。</li> <li>・導入ルーム・機器を活用した「研究授業」を行い、教職員の知識と理解を深め、機器の活用</li> </ul>

		<p>力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生きる教育」の取組みの一環として、「学校ヨガ」をグループ授業で実践。（専門家による出前授業 6 回）</li> <li>・「生きる教育」の実践研究を大学・企業と協働して行い、支援学校での「生きる教育」プログラムを開発していく。</li> </ul> <p>【保護者への発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入ルーム・機器の保護者向け体験会を実施。「生きる教育」の実践紹介として保護者学習会で「ヨガ教室」を実施。</li> </ul> <p>【地域支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の小・中学校・福祉事業所・医療関係者等へ向けて、導入ルーム・機器の体験会を開催する。</li> </ul>
	3 年 め	<p>【校内支援・研修】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジリハ機器やスヌーズレン機器・感覚統合遊具の「活用事例報告会」を実施。外部講師を招聘し、評価及び指導助言をいただき、実践を改善する。</li> <li>・導入ルーム・機器を活用した「公開授業」を行い、他校教職員とも情報交換を行い、自校の活用力を高める。</li> <li>・「生きる教育」の実践研究を大学・企業と協働して行い、支援学校での「生きる教育」実践例をまとめて発信する。</li> </ul> <p>【保護者への発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「東大阪はなさくプロジェクト通信」の継続配信。「生きる教育」の実践紹介として保護者学習会で「SNS 教室」を実施。</li> </ul> <p>【地域支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の小・中学校・福祉事業所・医療関係者等へ向けて、導入ルーム・機器の「活用実践報告会」を開催する。</li> </ul>
	取組みの 主担・実 施者	<p>主担：首席・部主事・自立活動部長・支援研修部長・文化情報部長・支援教育コーディネーター・養護教諭</p> <p>実施者：全教職員</p>
成果の検証方法と評価指標	初年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「東大阪はなさくプロジェクト」について、学校教育自己診断アンケートに「自立活動・生きる教育」関連項目を新設。</li> <li>・学校教育自己診断アンケートにおいて、「自立活動」に関する肯定的評価（保護者・教職員）が 65%を超える。</li> <li>・学校教育自己診断アンケートにおいて、「生きる教育」に関する肯定的評価（保護者・教職員）が 65%を超える。</li> <li>・「生きる教育」の取組みについて、PTA や地域の代表が委員である「学校運営協議会」での肯定的評価 80%以上。</li> </ul>
	2 年 め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断アンケートにおいて、「自立活動」に関する肯定的評価（保護者・教職員）が 70%を超える。</li> <li>・学校教育自己診断アンケートにおいて、「生きる教育」に関する肯定的評価（保護者）が 70%を超える。</li> <li>・「生きる教育」の取組みを含めた発信力について、センター的機能を発揮し、導入ルームや機器の体験会を実施。</li> </ul>

		参加者のアンケートで肯定的評価 70%以上。
	3 年 め	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断アンケートにおいて、「自立活動」に関する肯定的評価（保護者・教職員）が 80%を超える。</li> <li>・学校教育自己診断アンケートにおいて、「生きる教育」に関する肯定的評価（保護者）が 80%を超える。</li> <li>・「生きる教育」の取組みを含めた発信力について、センター的機能を発揮し、実践報告会を実施。参加者のアンケートにおいて、肯定的評価が 80%を超える。</li> </ul>